



NEWS RELEASE

2016年9月29日
東ソー株式会社

【東ソー・エフテック】ヨウ素学会賞を受賞

東ソーグループの東ソー・エフテック株式会社に在籍する研究者が、2016年9月16日に千葉大学で開催されたヨウ素学会シンポジウムにおいて、2016年度ヨウ素学会賞（技術的）を受賞しました。

ヨウ素学会賞（技術的）は、ヨウ素学会が毎年、ヨウ素の基礎研究、応用研究、ヨウ素産業の分野で、その発展に著しく貢献した個人（共同研究者を含む）を表彰するものです。今回の受賞は、トリフルオロヨードメタン（CF₃I）の工業的な生産プロセスを確立したことが評価されたものです。

トリフルオロヨードメタンは、地球温暖化係数（GWP）（※1）が0.4と環境にやさしい化合物で、半導体製造に必要なエッチングガスや消火剤等のハロン・フロン代替として注目されており、工業的製法の実用化が望まれていました。

記

1. 受賞名：ヨウ素学会賞（技術的）
2. 受賞者：長崎 順隆、鈴木 紳正、森國 義男、加登 幸治
3. 受賞件名：トリフルオロヨードメタン（CF₃I）の工業的な合成技術の開発
4. 受賞概要：

東ソー・エフテックは工業化が困難であった「トリフルオロヨードメタン」の合成法を研究し、新規触媒の開発、全く新しい概念のロータリーキルン型の反応装置の開発に成功し、この化合物の工業的生産プロセスを確立しました。この化合物はエッチングガスや消火剤等に、ハロン・フロン代替（※2）として実用化されています。

※1 地球温暖化係数（GWP:Global Warming Potential）は、二酸化炭素を基準（1.0）にして、他の温室効果ガスがどれだけ温暖化する能力があるかを表した数字です。

※2 ハロンやフロンは、オゾン層破壊防止や地球温暖化防止に向けた規制対象物質です。これらの代わりになる環境に負担のかからない代替製品が求められてきました。

ハロン：主に消火剤として使用

フロン：主に冷媒や半導体製造に必要なエッチングガスとして使用

以上